



茶の香だより

「コミュニティ・スクール」

武蔵村山市立第五中学校 校長 榎戸 千代子

本校のコミュニティ・スクールは、「学習・生活・地域連携」の3つの部で、今年度も活発な活動をしていただいております。「地域連携部」では、7月に「五中フェスティバル」を、9月に2年生の職場体験に代わる「プロから学ぶ会」を開催することができました。また、「学習部」では、7月下旬に武蔵村山高校生を学習サポーターとする1年生の夏季補習教室を実施しました。「生活部」では、校庭の芝刈りや防犯パトロール等で年間を通じてお世話になっています。第五中学校が地域の皆様に支えられていることを大変ありがたく思っています。今後とも学校運営協議会の活動に御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

「半年が過ぎて」

第五中学校 学校運営協議会会長 宮崎 保

新型コロナウイルスが未だ終息が見えない中、令和4年度が始まり半年が過ぎました。この中で、運動会、五中フェスティバル等、様々な行事が、滞りなく開催できたことは、教職員、PTA、地域の皆様等、たくさんの方々の御理解、御協力があったのだと思います。この場を借りて深く感謝申し上げます。これからも、制限の多い中での、学校運営となりますが、コロナに負けないで、皆で協力し合って頑張っていきましょう。

【学習部より夏季補習教室学習サポート事業の報告】

学習部会長 高橋 圭子

学習部の事業としまして毎年実施されております、武蔵村山高校の生徒さんの学習サポートによる第五中学校1年生の夏季補習教室を5日間行うことができました。多くの皆さま方の御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。



●武蔵村山高校 高野先生のお話●

昨年度に引き続き、今年度も夏季補習教室に参加させていただきました。本校の生徒が中学生に寄り添って教えている姿や問題に戸惑いながらも、どのように教えたらよいのか考え工夫している姿が大変微笑ましく思いました。来年度は今年度以上に充実した夏季補習教室にしていきたいと思っております。

●第五中学校 柴田先生のお話●

夏季休業中の7月25日～29日に補習教室を行いました。第1学年の補習教室では、武蔵村山高校の生徒が学習サポーターとして参加し、中学生に英語・数学・国語を教えてくれました。中学生は高校生に教えてもらうことで緊張感をもって課題に取り組むことができ、単元の理解を深めることができました。

【久しぶりの防犯パトロール】

生活部会長 加園 一茂



9月15日(木)、久しぶりに第五中学校運営協議会主催、五中校区防犯パトロールを行いました。二小・八小・十小・五中の学校運営協議会、PTA、青少対、学校先生方、おやじの会、市役所から約30名に参加頂き、二小・八小・十小(五中校区)の通学路を3班に分かれ約40分パトロールを行いました。パトロール中、各団体の壁を超えて情報交換が出来るのもこの活動のメリットだと思っております。

未だコロナ禍ではございますが、しっかり感染予防対策をした上で、児童・生徒達の安全の為、これからも活動を続けていきたいと思っております。

【五中フェスティバルとプロから学ぶ会を終えて】

地域連携部会長 堀上 みち子

7月に「五中フェスティバル」を、9月17日には「プロから学ぶ会」を無事に実施出来ましたこと、御尽力頂いた皆様に感謝致します。五中フェスティバルでは文化的な世界を人生の先輩方に教えてもらいました。プロから学ぶ会では、実際にプロとして活躍している講師の方々に、その道の大変さ、素晴らしさを教えてもらいました。生徒さんはそれを真摯に受け取ってくれました。前もって生徒さんがそれぞれに職業調べを行い、その中から代表者を選び代表者の発表を全員で聞いたあと、プロから学ぶ会に臨むという一貫した流れがありました。その様な環境の中で生徒さんはより集中して講師の方の声を聞いていると感じました。高校受験など将来を考える生徒さんにとって、この機会が少しでも将来の可能性を広げるものとなります様にと願わずにはいられませんでした。



◆画像は、学校運営協議会委員であり、今回の講師をされた看護師の水野 光子さんの授業風景。以下のような感想をいただきました。

「プロから学ぶ会を終えて」

先日、プロから学ぶ会において、医療職について講義をさせていただきました。看護師としてチーム医療で働く医療職についてや、看護師の夜勤などの仕事。最近のコロナの対応などを話しました。事前学習で学びを深めていた生徒の皆さんの熱心な熱いまなざしに心打たれて、こちらも緊張の中でしたが、とても嬉しく充実した時間を過ごしました。将来の何かのヒントになれば、さらに嬉しいです。

■武蔵村山の昔話■

11月3日は武蔵村山が村山町から「武蔵村山市」になった記念の日です。次の作文は昭和45年に当時の市内中学生が書いたものです。

『11月3日それはこの村山の人々が“市”という大きな字に心と目を向ける日である。“武蔵村山市”という市になる事を聞くと新たな希望がわく感じがした。けれど私には“市”というとデパートや大きな建物ばかりで人間が蟻の様に見える所が“市”というものではないだろうか。きっと家もたくさんできていくであろう。引越して来る人が「村山は良い所ね、空気が良いし緑が多いから」と言ってくれる、誰だってこういう事を言われれば気持ちが良いだろう。今後、このビルの多い車の行き来の激しい人のゴミゴミした武蔵村山市なんて私は言われたくない。私の希望は「市民の心が豊かであり、いつまでも緑を失わない立派な武蔵村山市になってもらいたい」という事だけだ』
(武蔵村山市HPより抜粋) 昭和45年は1970年です。50年以上前の中学生の夢見や希望の思いです。令和を生きる皆さんの思いと比べて考えてみて下さい。(文責 学習部 安部朋子)